



第 2826 例会

令和 7 年 3 月 12 日(水)

No. 0764

例会日 : 毎月第 2・第 4 水曜日

場 所 : 各務原市産業文化センター2階

住 所 : 各務原市那加桜町2-186

TEL <058>382-4649 FAX <058>382-4719

会 長 : 金武 峰之 幹 事 : 松久 茂彦

副会長 : 左高 洋 会 報 : 星川 俊輔

**本日のプログラム** ◎2025 年 3 月 26(水) 観桜例会

場所:坐蔵

**次回例会の予告** ◎2025 年 4 月 9(水) 春の防犯パトロール活動

場所:各務原市民会館 第2駐車場

**出席委員会** 会員総数 37 名 2024.7.1 現在



～ 外部卓話例会 (那加幼稚園 園長) ～

**司会進行**

堀尾 鎮章 副幹事

今後とも出会いを大切に、生活していきたいなど思います。そして本日は、学校法人 浅野文化学園 那加幼稚園 園長 川出 佳弘 様にお越しいただきました。本日は卓話、楽しみにしております。それでは皆さま、本日も宜しく願いいたします。

**会長挨拶**

金武 峰之 会長

皆様改めましてこんばんは。本日は4階で少し新鮮な気がします。

先日県内の同じロータリーで事件がありまして、自称僕も現状投資家を名乗っておりますが、関与はしていないという事をお伝えします。また僕が皆さんにお声掛けをするような事があれば、是非心よく出してくださいなと思います・・・冗談ですが。

ただ僕がすごいなと思ったのは、額は勿論の事、それを引き出す投資家さんの信用度、人間性。ある意味器の大きさを感じた次第であります。

僕も今、会長をさせていただいていますが、人生を学びながら自分の器を広げていければいいなと思っています。以前にもお伝えをしましたが、僕の今年のテーマは「行動と出会い」ということで、行動すると出会いがあり、出会うからまた行動する。ロータリーでお会いする皆さんとの出会い、更には今後それ以外でも出会う人も沢山いると思いますが、自分の人生を振り返った時に転機となった出会いが、ターニングポイントじゃないかな、と思っていまして、色々な出会いが自分をまた少しずつ成長させていってくれるのではないかなと思っております。



**3分間スピーチ**

佐藤 千佳 君

職業のところで、私人工関節屋さんになりました。メディカルピットの方で、訪問看護事業の方で、取引をしているメーカーの人工関節を扱っており、手術の際に人工関節を持って



「これを入れてください」という形で、手術室まで入っていく、お仕事をしております。これからちょっと精力的に、各務原市内の病院に営業に参りたいと思いますので、お力添えいただける先生がいらっしゃいましたら是非『人工関節 佐藤が売っているよ!』ということで、ご紹介をいただけましたら幸いです。インターチェンジジャパン(株)のプレミリカという人工関節のブランドになります。是非ともご協力いただけたらと思います。あと人工関節入れたい、という方も、是非に。予防にもなりますし、人工関節は20年30年持ちますが、そろそろ交換したいな、という方や痛みを感じるよ、とかそういう方がいらっしゃったらご紹介いただけたらと思います

東海中央病院は100%このメーカーを使っていますので、また色々拡大をさせていきたいと思っております。営業になりましたけれども、よろしく願いいたします。



### 私のお仕事 (第16回)



### 河野 春男 君

私は法面工法という崖崩れや、それを防いだり復旧したりする工事をしております。今、各務原市の新鵜沼台で大変大きな亀裂が見つかり、復旧工事を行っ

ております。

そういった特殊な工事ですが、つい先日埼玉の八潮市で下水道の問題がありましたが、あれは高度経済成長期に建設されたインフラが、更新を迎える時期に今来ているわけです。

今後10年、20年経ったら、ほとんど更新しなければいけない、という事で岐阜県はこれにいち早く取り組んでいます。岐阜県の人口は、全国都道府県17番目で、そこそこ多いです。また道路延長が全国11位。トンネルとか橋、道路、これが6位。それだけ点検と維持をしていかなければいけなく、お金がとてめにかかります。少しでもその費用を抑えるために、岐阜県は岐阜大学、県、企業と提携しME(メンテナンスエキスパート=インフラ施設維持管理の高度専門技術者)という資格を作り、それを毎年増やし現在600人程います。私も一昨年受け、インフラ施設に対して適切な診断と処置をするために、岐阜大学で1ヶ月の講義に通う必要があります。

インフラ施設を安全に保つためには、日頃からの点検が不可欠ですが、今進めているのはトンネルと橋梁です。橋はもう待った無しで、トンネルも山梨県の笹子トンネルの天井板崩落事故によって、5年に1度全部点検が必要な事になっています。今は、そういう仕事をやっています。

そして今後考えている事は橋やトンネル、道路以外にもっとすごいのがあって皆さん高速道路を走っていると、法面に落石防止ネットとかあるじゃないですか。あれももう更新の時期が来ていて、もしあれがピチンって切れたら、ズワーンと崩れちゃいます。そういう法面保護工についても、今後は進めていかなければならないかな、と思っております。

私の仕事はそんな感じです。ありがとうございました。



## 委員会報告

☞ BOX 報告 R財団委員 河野 春男 委員長

・金武 峰之 会長 皆様 こんにちは。川出様 本日の卓話 宜しくお願いします。

・堀尾 鎮章 副幹事 皆さん こんにちは。川出さん 今日は宜しくお願いします。

・松井 雅史 直前会長 川出さん ようこそ各務原 RC へ。後はサインだけです。

・野村 公人 エレクト 本日の外部卓話 楽しみにしておりました。川出様 宜しくお願いします。

・平井 正晴 君 川出さん ようこそ各務原 RC へ。本日 喜寿を迎えました。今後も例会出席頑張ります。

・可児 昌則 君 ようこそ川出様、宜しくお願いします。

・竹田 克茂 君 今日も宜しくお願いします。

・永田 和弘 君 児玉真子さんの「なおちゃん」娘と行ってきました。本日は川出さん、宜しくお願いします。

・小島 博彦 君 川出先生、本日は宜しくお願いします。

・佐藤 千佳 君 川出様 ようこそ！今後共宜しく宜しくお願いします。

スイスさん、先日はお話し楽しかったです。山登り行きましょう！

Let's climb Fuji mountain as a team!

・多和田 充宏 君 皆様こんにちは。本日も宜しくお願いします。

・西条 継之 君 川出さん ロータリーへようこそ。子供3人、那加幼稚園でお世話になりました。有難う御座います。

・河野 春男 君 川出様、本日の卓話宜しくお願いします。

## 本日のプログラム 外部卓話

那加幼稚園 園長  
川出 佳弘 様



私は平成 19 年に那加幼稚園に入職し、平成 30 年から園長をやらせていただいています。

本日は簡単な幼稚園の紹介と、少子化について僕から見た問題点、捉え方のお話、そして求人状況についてお話が出来たらと思います。

那加幼稚園は、中央図書館がある市民公園のすぐ北にある幼稚園です。反対側には那加第二小学校があり、名鉄と JR の線路に挟まれたところにあります。

この幼稚園は昭和 31 年に設立され、それまでは個人経営という形でしたが、昭和 54 年に学校法人化にし、現在に至っております。



外観はこんな感じです。

もともこの幼稚園は、柿畑だったらしく創立者がその柿畑を、子どもたちのためにという理由だけで、幼稚園にしたそうです。

今頃は、葉っぱも枯れた柿の木が何本か残っている、という状態です。しかし夏になれば葉っぱを付け、秋になれば実をつけます。何も栄養など入れておりませんが、とてもたくましく素晴らしいです。

余談ですが当時は、洋裁学校も併設していたそうですが、時代の流れとともに閉鎖になりました。

普段子供たちは、園庭で遊んでいるという感じです。お店屋さんごっことか、夏だったらプールで遊んだり、那加第二小学校のグラウンドを借りて運動会を行ったりいろいろな行事を行っています。遠足は、愛知県側に行ったりしています。

次に、各務原のデータベースを基にした園児数についてお話しさせていただきます。

平成 23 年には私立幼稚園は 14 園あり、一番児童が多いところで 150 人くらい、一番少ないところだと 70 人くらいの定員規模の園がある中で、当時各務原市内の私立幼稚園に通っている子どもたちの合計は、2,826 人でした。しかし平成 23 年から令和 6 年度の間、私立幼稚園へ通っている園児数が約 800 人減少しました。

先ほどお話しした様に、一園が多くても 300 人、小さい園だと 100 人切っているような園がある中で、800 人減少しているという事は、大きい園だったとしても 3 園くらいは丸ごとなくなっているような状況です。ある小さい幼稚園は、この地点で閉園しており、各園かなり存続でいろいろと努力している状況です。この少子化に対して各園がどの様に対応をしているかという、私立幼稚園が認定子ども園化し 0、1、2 歳児を預かる様に変ってきました。

本来幼稚園は 3 歳からなので 0、1、2 歳を預かるような組織や建物に変更しています。

もしくは満 3 歳と言って、通常幼稚園は 3 歳になった後の 4 月から入園するところ、3 歳になった時点で幼稚園に入れる様に満 3 歳教室クラスを作り園児数獲得に努力をしています。

ここで満 3 歳に関して少し細かい話になりますが、例えば保育園で 2 歳児クラスに通っていた子が、満 3 歳になった瞬間に幼稚園に転園して来るケースがあります。保育園の場合、満 3 歳の子たちは保育料がかかりますが、幼稚園の場合満 3 歳のクラスに入れば、

授業料が無償化の為、金銭面で大きなメリットがあるということです。この様に保育園で 2 歳児教室にいた子どもたちが、3 歳を迎えたら、幼稚園の満 3 歳クラスに入るという、そういう流れも出来ている感じですか。とはいえ、正直人数的には厳しいところです。特にこの 3 年間、令和 4 年、5 年、6 年は極端に園児数が少ない状況です。今までも、何度か増減しながら緩やかに右肩下がりになっていますが、ここまで激減しているのはこの直近 3 年になります。同様に各務原市のホームページから、その年度の 4 月の人口から 3 歳、4 歳、5 歳児の数字を出してみました。同じように減少数は激しい状況になっていました。

この様な中、小規模保育に変更していくという園が徐々に増えているといった状況です。

次に求人状況について、お話しさせていただきます。今までは、大学にお願いをしてずっと求人募集をしていました。平成 22 年の那加幼稚園の求人枠について、2 名募集のところ応募人数が 7 名。23 年は、募集 1 名に対して応募 7 名、24 年は、募集 2 名に対して応募 8 名であり、この年までは大学に募集要項を出せば自然と募集が来るといった状況でした。しかしこの辺り(27 年度)からは、園側が直接大学や養成校に出向き、求人をお願いをしないと人が集まらない、募集が集まらないというような状況になってきました。これは 27 年度から現在に至っても同じ事が言えます。大学や養成校に直接出向き、教授の先生にお願いをしたり、知り合いで誰かいないかという、そういう形じゃないともう求人枠が埋まらないような状況です。時代の流れと共に、募集の感覚がガラッと変わったということです。近年人材紹介からよく電話がかかってくるケースが増えてきました。人材紹介さんが『新卒の方がいるんですが、どうですか』と。これはつまり、自分で探していないということですね。もう時代といえ時代なのかもしれませんが、私としては意外な感じですか。岐阜県の幼稚園連合会が主催する就職ガイダンスでは、以前は大学 4 年生など卒業する学生で求人ブースが埋まっていたんですが、それも徐々に減少し、近年では一つ下の学年(大学 3 年生)を、去年に至っては更にその下の高校生を就職ガイダンスに呼んで、仕事の紹介をする形を取っています。そうしないと人が集まらない状況になっています。

近年は幼稚園のイメージ悪化が影響しているのもありますし、当然少子化ということで働く人の人数が減っている事もあります。幼稚園と保育士との待遇の違いということで、働く人はどうしても保育所に流れる傾向にあります。ただ保育士自体も募集としては少ない状況ですが、『それでも保育士がいい』と言う先生がみえます。その理由として、手当に違いがあるということです。例えば住宅手当、保育士は行政で借り上げ支援事業がありますが、私立はありません。奨学金についても、岐阜県社会福祉協議会が肩代わりする制度(条件有り)がありますが、私立にはそういった制度はありません。給与アップ制度、保育士は行政によるキャリアアップ支援、処遇改善がありますが、幼稚園の方はありません。勤務時間形態について、幼稚園は基本的に固定時間になります。一人の先生が朝から夕方までという感じで、ずっと一人で見ると対し、保育所は朝晩遅晩といったシフト制になっています。逆に言うと勤務時間が明確にされているため、その時間だったら上がれる、ということです。幼稚園の場合、いわゆるサービス残業のような状況です。有給休暇は、基本的に法令に基づいています。また保育園の場合、誕生日休暇など独自の福利を導入している所が多いです。これらが可能な理由として、シフト制を導入している事で職員が多く、カバーし合える事かと思いません。業務に関して、幼稚園では基本一人担任、クラスに一人先生がいるケースですが、保育所の場合 小さいクラスになれば 複数担任になるのが基本です。しかし、メリットとして一人担任だと負担増ですが、他の教員と意見がぶつかることが少なく、負担は減になります。他の先生とやる事で、教育方針とかによる意見の相違が起きる可能性が大きい事も挙げられます。こういった面で色々悩まれる先生も見えるかもしれません。また私立なので、経営の不安定さも挙げられます。逆に保育所は公立が多いので、安定しています。なので、先ず公立(保育所)を受けて落ちた人が 幼稚園に行く というのがおよそ 2 割です。また各務原市という立地の条件から見て、愛知県側が近い為そちらに流れる傾向があります。行動力のある人は、犬山や江南の保育所で内定をもらって、落ちたら那加幼稚園でお願いします、みたいな感じで・・・。先程の続きで、保育所そのものを目指す学生が少なくなっている、職種のイメージ悪化もあります。

ついこの間も、園児をバスの中に取り残しニュースに取り上げられた、などその他諸々あります。また昔は幼稚園と保育園という働き口しかありませんでしたが、現在は小規模保育や放課後デイサービス、企業内の保育施設など 幼稚園以外で働く場所が増えているということ、幼稚園である必要もない、ということが挙げられます。幼稚園、保育園にこだわらなくても色々な所で働く場面がある、という現状で園児数も職員求人状況も減少して、苦しい状況になっています。最後に、2022年(令和4年)に報道された事件をきっかけに『不適切保育』という言葉がよく取り上げられています。『不適切保育』とは、保育者の保育行動や保育環境が子どもの心身の成長や発達に悪影響を及ぼす状況を指します。例えば、子どもに対する暴言や体罰、不適切な叱責、または必要なケアの欠如などが挙げられます。また、過度な放任や過保護で自発性を阻害する行為も含まれます。とある園内研修で、年中の子ども達を対象に 活動を始めるにあたって興味を引きつけるための導入、ということで遊びを始めます。子ども達は、何でこんなことをしないといけないのか、何で先生は私たちにこんな事をやらせるのか、という視点から、子どもたちの興味を引き出すための活動になります。

今回は『しっぽ取りゲーム』になります。どんなしっぽかな?と言う事で、しっぽをイメージして、自分たちでしっぽを作り、外に出てしっぽ取りを始めます。ここまでは先生の思った通りの保育が出来ている状況です。当初はしっぽを取られた子は、悔しがって泣いたりするんじゃないか、という懸念もありましたが、非常に笑顔で全然悲しがっていません。また負けたからと言って、悔しがったり怒ったりとかもなく、逆に応援したりします。

この年齢ですと、もう他者の気持ちが分かるようになり応援したり、ゲームの理解が十分出来ている状況です。しかし集団活動している一方で、どうしても馴染めない子が現れます。その際、先生一人に対しグループが二つに分断してしまう際の、安全管理が問題になってきます。先生としては、このゲームをやって欲しいという気持ちが強くなってしまおうと、こういう集団に馴染めない子たちを強要してしまう事につながります。それが結果的に、不適切保育の流れの一つになるのかなど、僕は解釈しています。

なので先生たちは、そういう子どもたちの個々の特性や性格を見極めて、その子なりの接し方が必要になってくるのではないかなと思います。結果、馴染めずに集団から離れてしまった子も、全然別の事をやっていますが、全く興味がないわけではなく、ゲームの後半で仲間に入ってきています。タイミングや先生が声をかけて集団に入るようにする、例えばゲームのルールが難しくて入れないという場合、簡略化してゲームに入るようにするなど、個々の対応が必要になってくる。これはあくまで一例ですが、不適切保育と言われる中の一つではないかなと思います。例えばお昼寝で寝ないから「なんで寝ないの」とか、そういう事です。子ども達一人一人の感覚を把握して、タイミングを見て促すことも必要です。指示、命令で強制的に促すのではなく、自分でした方がいいと思えるような声かけを考えてみる、そこの対応かなと思います。対応策は限りなくあると思います。こういうことを研修で考える過程こそが、不適切な保育への理解を深めることになるのではないかなと思います。

